

経営比較分析表（平成28年度決算）

秋田県地方独立行政法人市立秋田総合病院 秋田総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	25	対象	ド透I未訓ガ	救臨輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	28,708	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

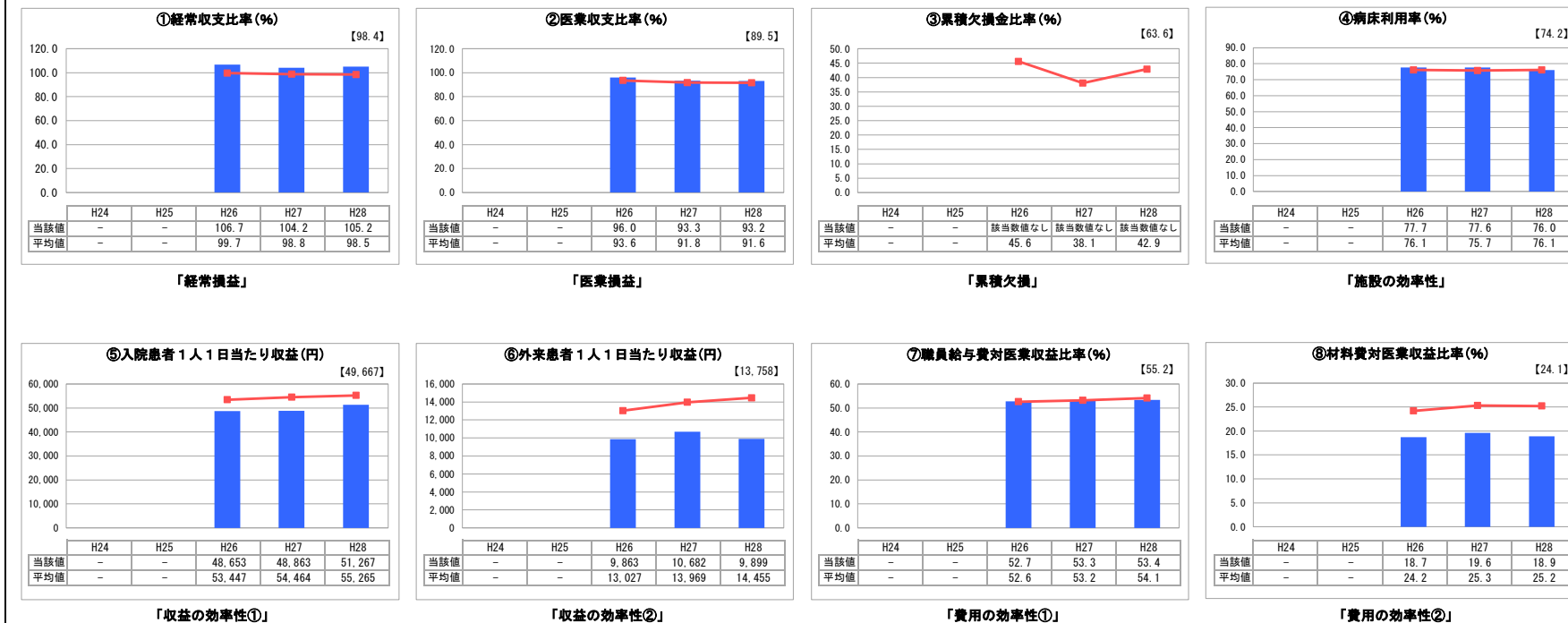
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
374	-	22
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
60	-	456
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
374	-	374

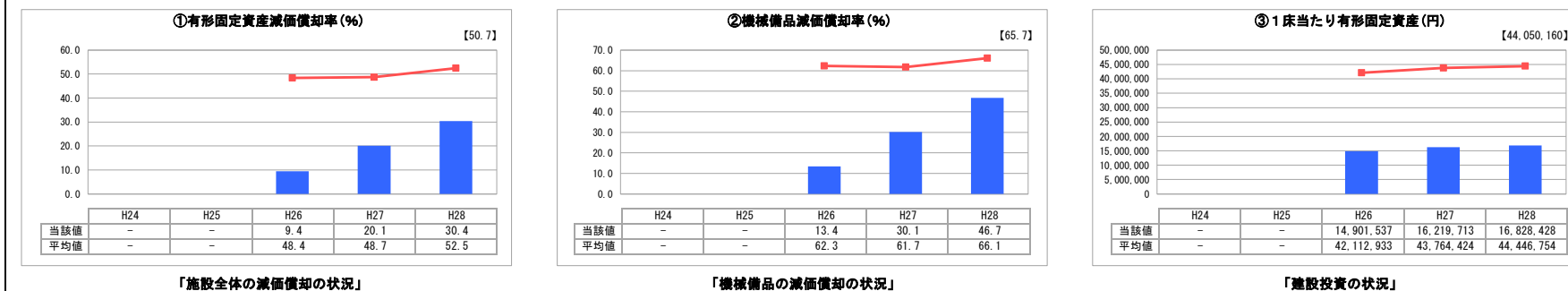
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



I 地域において担っている役割

地方独立行政法人市立秋田総合病院は、公的医療機関として、結核・精神・救急等の政策的な医療やがん診療等の高度な医療を総合的に提供している。
特に、秋田県がん診療連携推進病院として難易度の高い外科的治療等の提供や救急告示病院として一般救急および小児救急を開設している。また、精神科領域では、秋田県で唯一の基幹型認知症疾患医療センターに指定され、地域の中核的医療機関としての役割を果たしている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度は、平成27年度に比べ、収益では手術件数の増により入院収益が増加したが、外来に係る診療単価の減により外来収益は減少した。費用では職員数の増により給与費が増加したが、材料費等が減少し、その結果、医療収支比率は平成27年度と概ね同水準となっている。
また、経常収支比率は、営業外収益等の増により平成27年度に比べ増加するとともに、100%以上を維持している。

2. 老朽化の状況について

病院建物については竣工より32年が経ち老朽化が進行していることから、計画的に修繕を行っているほか、医療機器についても、経過年数等を踏まえ計画的に更新を進めている。
また、病院建物の老朽化や狭小化の解消を図るため、新病院の建設を進めており、平成28年度は医療機能や必要な施設設備、事業計画等の検討を行い、「市立秋田総合病院改築基本構想」を策定した。

全体総括

平成26年度に地方独立行政法人に移行後、3年連続で経常収支比率100%以上を維持しており、安定した財務基盤の確保を図りながら、地域における中核的な公的医療機関として、総合かつ高度な医療を提供してきているといえる。
今後とも、業務運営の効率化を図りながら、収益の確保と経費の節減に努め、良質な医療を安定的に提供していく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。